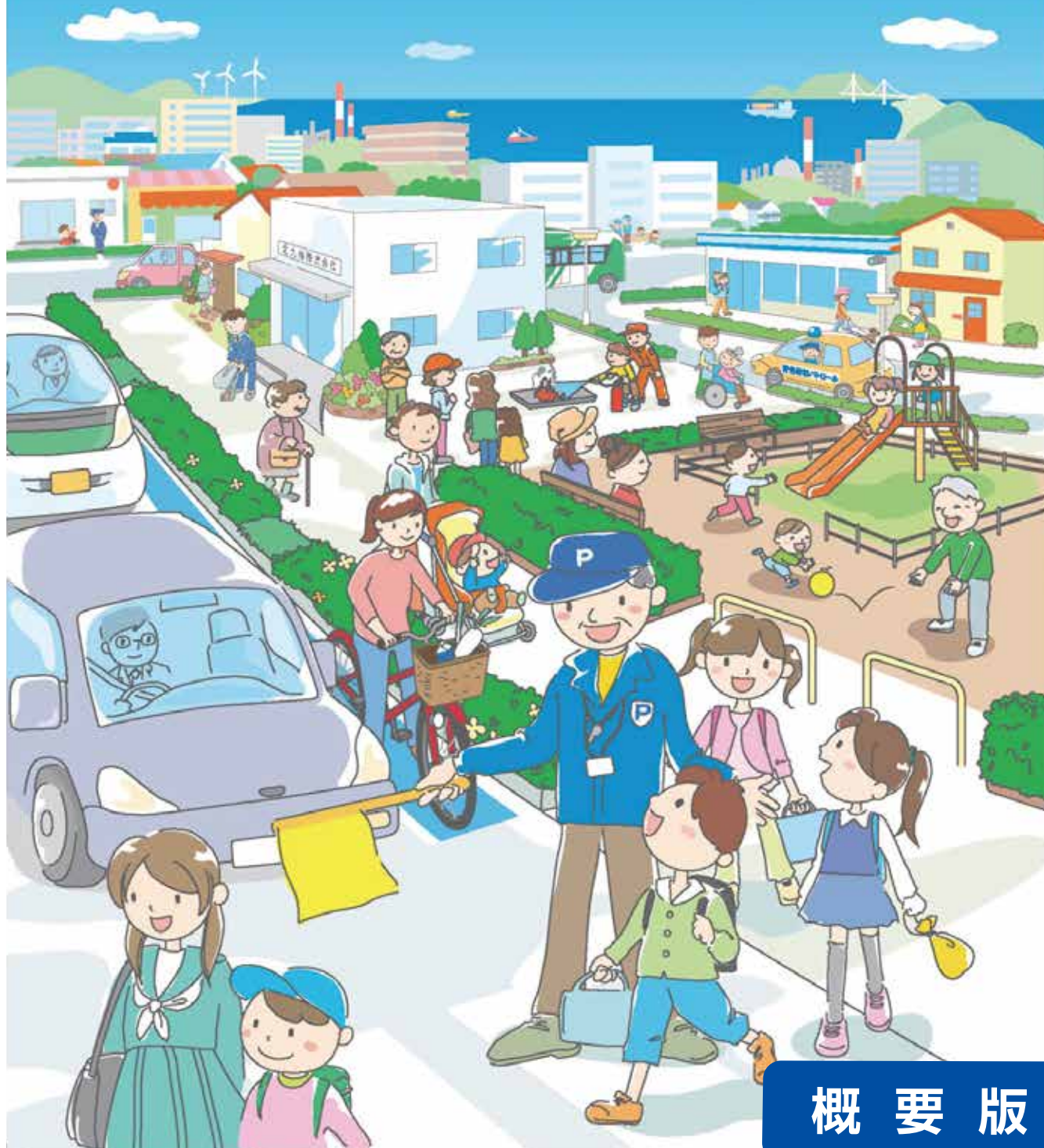


誰もが安全・安心を実感できるまちづくり



概要版

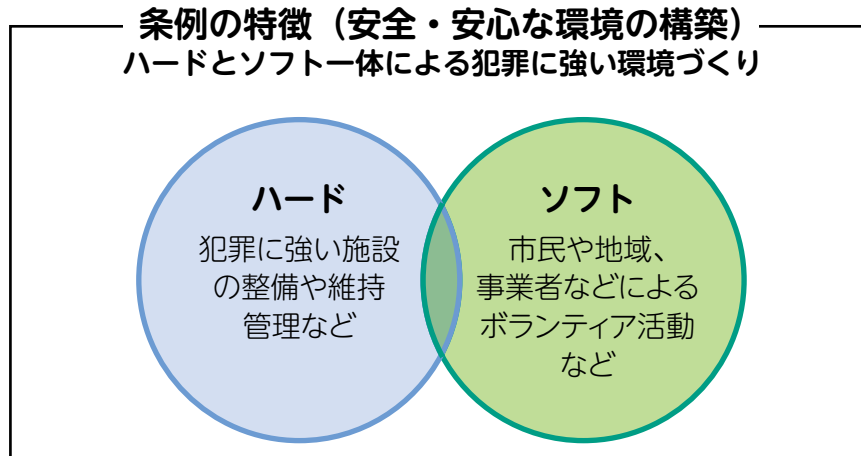
防犯コミュニティ ガイド

“BOUHAN” COMMUNITY GUIDE
～ プラス防犯でより安全で安心なまちづくり～

北九州市

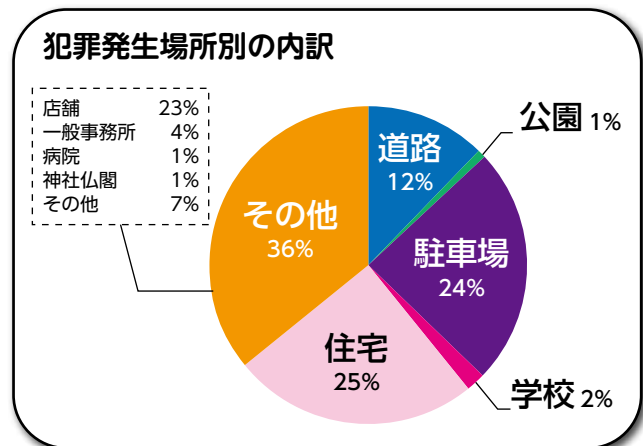
北九州市安全・安心条例

- ・施行 平成26年7月1日
- ・目的 市民はじめ本市を訪れる人が、安全・安心を実感することができるまちを実現し、安全・安心なまちづくりを次の世代に継承する
- ・基本理念 自助、共助、公助による推進、都市イメージの向上
- ・特徴 安全・安心な環境を構築するため、ソフト（市民活動など）とハード（施設整備）を合わせて推進する



犯罪発生別の概況

場所別に犯罪の発生状況を見ると、全体の37%が道路（12%）、公園（1%）、駐車場（24%）のいわゆる公共空間で発生しています。また住宅では25%の犯罪が発生しており、その他では店舗が23%と続いています。



資料：「平成25年の犯罪情勢」（平成26年6月 警察庁）

防犯コミュニティガイドの役割

防犯コミュニティガイドは、安全・安心な環境の構築のひとつとして、犯罪が起きにくい公共施設や住宅などの整備、管理とともに市民、企業など安全・安心な取り組みが円滑に進められるよう参考としていただくために作成したものです。

■ 公共施設の整備等に関わる行政職員のための手引き

行政が整備・管理する道路、公園等において、安全・安心な環境づくりを進めるための基本的な考え方を示すとともに、施設整備や維持管理の具体的な取り組みも提案しており、防犯まちづくりの手引きとして、広く市の関係職員に活用していただくものです。

■ 市民・事業者などによる防犯まちづくりの手引き

個人住宅、集合住宅、福祉・医療関係など民間の施設整備、市民や地域のボランティア活動、さらには企業活動などハード・ソフトの両面から具体的な取り組みを提案しており、防犯まちづくりの手引きとして、市民・事業者等とともに関係団体にも広く活用していただくものです。

犯罪に強いまちづくりの理論

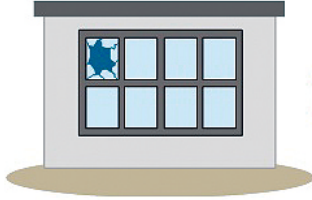
～犯罪の予防「割れ窓理論」～

アメリカの犯罪学者ジョージ・ケリング博士によって提唱されたもので、「1枚の割れたガラスを放置すると、いずれ街全体が荒れて、犯罪が増加してしまう」という理論で、逆に、落書き、ごみのポイ捨て、自転車放置など軽微な秩序違反が起こらない環境づくりは、犯罪の発生防止に効果があるとされています。

①割られた窓を放置しておく…

②他の窓も割られるようになる

③環境が一層、悪化する



誰も気にしていない…
割っても平気なのか？



この場所には誰も関心がないようだ



何をしても、
この場所ならバレないだろう



軽犯罪の温床になる
(重大な犯罪が起こる
可能性が高まる)

～犯罪の予測「犯罪機会論」～

犯罪社会学の専門家である立正大学の小宮信夫教授が提唱する犯罪予防のための理論で、犯罪の機会を与えないことによって犯罪を未然に防止しようとする考え方です。「犯罪を行いやすい環境」を取り除く、言い換えれば、犯行に都合の悪い状況や、犯罪企図者に犯行をあきらめさせる状況をつくり出すことによって、街頭犯罪等を減少させることができます。

～ 犯罪に強い3つの要素 ～

犯罪機会論では、「監視性」、「領域性」、「抵抗性」を犯罪抑止の3要素として位置づけ、この3要素を強化することによって犯罪の機会を減少させることができるとされています。

① 監視性の強化



ハード：視認性（防犯カメラ、防犯灯、植栽管理など）
ソフト：当事者意識（清掃活動、挨拶運動など）

② 領域性の強化



ハード：区画性（ガードレール、フェンスなど）
ソフト：縄張り意識（パトロール、防犯看板など）

③ 抵抗性の強化



ハード：恒常性（ロック、防犯ブザーなど）
ソフト：管理意識（整理整頓、情報収集など）

～防犯につながる活動の理論「プラス防犯」～

プラス防犯

東京大学の榎野公宏准教授が提唱する防犯まちづくりの一手法で、防犯と直接関係のない日常行動や防犯以外の分野のまちづくりに防犯の視点を加えるものです。

以下に防犯につながる活動理論の例を紹介します。

■防犯と環境美化

地域の環境美化は防犯まちづくりとしても有効です。

割れ窓理論のとおり犯罪者にとってみると、管理の行き届かない人々の関心が払われない場所、犯罪や秩序違反が許容される場所であるという印象を受けるでしょう。



■防犯と交通安全

防犯対策の中には交通安全対策としても有効なものがあります。

●領域性の強化と通過交通の抑制

「領域性の強化」とは、居住者などによる縄張りを犯罪企図者に知覚させて犯罪を抑止しようとする考え方です。

例えば、住宅街に通過交通を進入させないための装置の設置や、国が推進している「ゾーン 30」などの面的な交通安全対策は、領域性を強化するという点で防犯まちづくりの手段にもなり得ると言えます。

犯罪に強い環境の構築に向けた施設整備の例

全国のデータで犯罪の発生場所は、全体の37%が道路、公園、駐車場いわゆる公共空間で発生しています。

ここでは、施設整備や維持管理に関して、犯罪機会論・プラス防犯の視点から犯罪の抑止にも期待できる取り組みを紹介します。

■ 道 路

交差点部の見通しの確保



交差点部の見通しが良くなると、犯罪企図者(※)を発見しやすくなり、ひったくりや暴行などの犯罪を防ぐ効果も期待できます。

※犯罪企図者とは、犯罪を行おうとする者を言います。



交差点改良による見通しの確保

明るい道路の空間づくり



道路の照明灯設備(照度の確保)は、視認性の確保や犯罪企図者の発見などにも有効で、照明をLED化することでその効果はさらに高まります。

※見通しを良くして明るくすることがポイントです。

歩車道境界ブロックの設置 ガードレール、植栽帯等の整備



歩車道境界ブロック、ガードレール、植栽帯等の設置により、歩道と車道が分離され、歩行者に対する連れ去り、窃盗(ひったくり)などの犯罪を防ぐ効果も期待できます。

ゾーン30の整備

ゾーン30(路面表示)



このような対策により自動車の走行速度が抑制され、部外者が侵入しにくく、逃避しにくい環境とすることができ、防犯上の効果も期待できます。



ゾーン30における生活道路対策

ハンプ・狭さく等の整備

コミュニティ道路(狭窄、クランク)



ハンプやコミュニティ道路の整備により自動車の走行速度が抑制されるとともに、犯罪企図者が侵入しにくく、逃走しにくい環境となるため、防犯上の効果も期待できます。



ハンプ

道路植栽の適正な維持管理



道路空間において、周囲からの自然な視線が確保されることで、犯罪に着手しづらい環境づくりにつながります。

電柱の移設などバリアフリーの取り組み



歩道橋の撤去や電柱の移設は、道路空間の死角が無くなり、犯罪の予防や犯罪企図者の発見など防犯上の効果も期待できます。

※ 整備にあたっては、それぞれの施設の設置基準等に適合する必要があるため、実施場所の確認や設置条件、関係機関との協議など、総合的な面から検討を行います。

公園

視認性の高い外構整備



公園外周における見通しの良いフェンス等の設置や植栽の適正な維持管理（剪定）は、公園周囲からの自然な視線が確保されやすくなり、防犯上の効果も期待できます。

公園内の明確な歩行者動線の確保



公園内の歩行者動線を明確にすることにより、利用者や通行人からの自然な視線が確保され、犯罪企図者を発見しやすくなり、防犯上の効果も期待できます。

遊具広場（ゾーン）の整備



遊具広場を周囲から見えやすく整備することで、公園利用者などの視線が確保されるため、子どもの連れ去りなど犯罪企図者が犯罪に着手しづらくなり、防犯上の効果も期待できます。



出入口の工夫



公園の出入口を限定することで犯罪企図者などが侵入しにくくなり、防犯上の効果も期待できます。

トイレの配置の工夫



トイレを周囲から見やすい位置に配置することで、公園利用者などの視線が確保されるため、犯罪企図者が犯罪に着手しづらくなり、防犯上の効果も期待できます。

明るい公園の空間づくり



公園での照明灯設置（照度の確保）は、視認性の確保や犯罪企図者の発見などにも有効で、照明をLED化することでその効果はさらに高まります。

※見通しを良くして明るくすることがポイントです。

さまざまな取り組みによる公園利用の活性化

多くの市民が公園を利用することで、監視の目が増加し、犯罪企図者の発見など防犯上の効果も期待できます。



健康広場の整備例



休憩舎の設置例



公園内の未利用地を活用



公園内の未利用地を菜園として活用

■ 駐車場・駐輪場

駐車場出入口での見通しの確保

出入口での見通しが良くなることにより、敷地内への自然な視線を確保することが可能となり、犯罪企図者の発見など防犯上の効果も期待できます。



駐車場で入口における交通安全対策

敷地境界におけるフェンスの設置や植栽の剪定

透視性の高いフェンスの設置や植栽の適正な剪定により、周囲からあるいは周囲の自然な視線を常に確保することが可能となり、犯罪企図者の発見など防犯上の効果も期待できます。



見通しの良い敷地境界（フェンス等）

明るい駐車場・駐輪場の整備

駐車場・駐輪場での照明の設置（照度の確保）は、視認性の確保や犯罪企図者の発見など、利用者の安心感の向上や防犯上の効果も期待できます。

※見通しを良くして明るくすることがポイントです。



駐車場・駐輪場の照明

■ 学 校

入口や動線の明確化

学校の入口や正面玄関までの動線を明確にすることにより、犯罪企図者の発見など防犯上の効果も期待できます。



誘導線の設置



出入口の明確化

■ 住 宅

敷地境界におけるフェンスの設置や植栽の剪定

透視性の高いフェンスの設置や植栽の剪定により、周囲からあるいは周囲への自然な視線を常に確保することが可能となり、犯罪企図者の発見など防犯上の効果も期待できます。



沿道宅地から自然な視線が確保されている住宅地の例



敷地境界の花壇整備や花づくり

花壇整備や花づくりなど活動が進んでいる地域は、犯罪企図者が心理的に近づきにくいと感じる傾向があり、また日常的な美化活動の目は監視性の確保に寄与することから、犯罪企図者の侵入防止など防犯上の効果も期待できます。



敷地境界の花壇

庭への玉砂利の敷設

庭に玉砂利を敷設することで、侵入者の足音が聞こえやすくなり、犯罪企図者の発見など防犯上の効果も期待できます。



玉砂利の敷設

犯罪に強い環境の構築に向けた市民活動等の例

犯罪に強い環境の構築のためには、市民や地域団体、さらには事業者などによる活動や取組みも、犯罪を起りにくくするソフト面の対策として重要です。

ここでは、犯罪機会論やプラス防犯の視点から犯罪抑止にも期待できるボランティア活動や市内で実施されている防犯の取組みについて、紹介します。

■ 犯罪抑止にも効果が期待できる活動

あいさつ運動の推進

あいさつをかわすことで、地域の子どもと大人が顔見知りになり、地域の安心感の向上につながります。また、犯罪企図者の立場では「顔を見られた」という意識が働き、犯罪企図者の発見など防犯上の効果も期待できます。



あいさつ運動

スクールヘルパーや地域による児童の見守り活動

登下校時の見守り活動は、犯罪企図者の発見など防犯上の効果も期待できます。



児童の見守り活動

防火パトロール

犯罪企図者の発見や犯罪企図者が犯行に着手しづらい環境づくりにつながります。



防火パトロール活動

ジョギング・ウォーキング

ジョギング・ウォーキングにより、犯罪企図者への監視の目となるなど防犯上の効果も期待できます。



ジョギング・ウォーキング

地域が主体となった環境・美化の取組み



道路・公園・河川の清掃活動



花壇の整備・花づくり活動



まち美化キャンペーン

地域住民の目が常に行き届き、地域が犯罪を許容しないという暗黙のメッセージを送ることになり、犯罪企図者が犯行に着手しづらい環境づくりにつながるなど、防犯上の効果も期待できます。

■ 市内で実施されている防犯の取組み

地域防犯パトロール

本市では、生活安全パトロール隊やPTAなどによる、子どもの見守り活動、夜間の防犯パトロールや交通安全指導など自主的な防犯活動が行われています。



青色防犯パトロール活動

本市では、自動車に青色回転灯を装備した自主防犯パトロール活動が行われています。



この他にも

- 商工会議所及び大学との協定
- 学生防犯ボランティア
- セイフティ・センター
- SDE 校の推進
- タクシーや営業車による見守り活動
- 地域安全マップづくり
- 安全セミナー・犯罪から身を守るセミナー
- 落書き消去活動の支援

などをはじめとした市民や事業者の皆さんの取組みにより安全・安心が支えられています。

防犯コミュニティづくりを視点に加えたまちづくり点検・ワークショップ

本市では、これまでも道路や公園など公共空間を対象に市民参加による交通安全総点検やバリアフリー点検を実施してきました。今後は、このようなノウハウを活かし、防犯コミュニティという新たな視点も加えた点検・ワークショップを行うとともに、それをまちづくり、施設整備に反映する取り組みを実施します。

安全・安心に配慮した施設整備モデル事業（平成 26 年度の実施例）

八幡東区皿倉校区（尾倉三丁目公園、春の町一丁目公園、西本町四丁目公園）を対象に点検及びワークショップにより、最終的な改善案（整備計画案）をとりまとめました。

～【点検・ワークショップの紹介】～

◆第1段階 ⇒ 防犯に関する勉強会 ～知識の共有～

どのような環境で犯罪が起こりやすく、どのようなことに注意すべきかなど、防犯に関する知識を学びます。



◆第2段階 ⇒ 自分達のまちを見つめる ～まちの防犯環境の観察～

参加者が犯罪企図者の立場に立って対象地区を観察し、地域の防犯上の問題箇所を洗い出します。



◆第3段階 ⇒ 地域安全マップの作成 ～問題点や課題を整理し、形にする～

点検の結果をもとに問題や課題をまとめたマップを作成します。



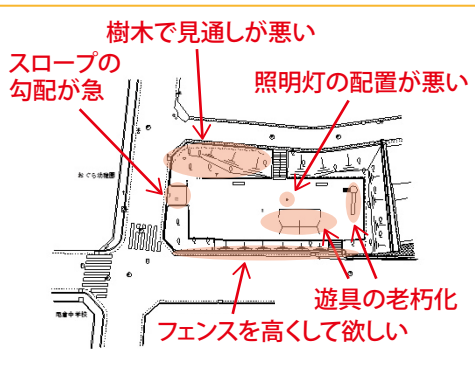
◆第4段階 ⇒ まとめ ～改善案の協議・提案～

作成したマップをもとに、全体の意見交換を通して、改善策をとりまとめます。



市民、地域団体、事業者、学校、行政などが幅広く連携し、防犯まちづくりを推進

点検後、問題点や課題を整理したマップ



改善案を協議し計画案を作成したマップ

